社会福祉法人 恩賜財団 済生会
山形済生病院

山形済生病院 院外広報誌

JIN 号外

山形済生病院
院外広報誌「じん」

愛と思いやりの医療を提供します

特集／人工関節センター・周産期センターのご案内

CONTENTS

01 メッセージ
02 人工関節センター・周産期センター
03 人工関節センターインタビュー
05 周産期センターインタビュー

JIN 山形済生病院 院外広報誌「じん」

発行

社会福祉法人 恩賜財団 済生会
山形済生病院
〒990-8545 山形県山形市沖町79-1
TEL 023(682)1111 / FAX 023(682)0123
https://www.ameria.org/

当院の理念

MISSION

「仁」...愛と思いやりの医療を提供します

VALUE

安全で質の高い医療
誠実で信頼される医療
連携に基づくチーム医療
地域包括ケアシステムの構築

VISION

急性期から在宅まで地域で安心して暮らせる医療に貢献します
患者さんより信頼の得られる病院を目指します

受付時間・休診日

月～金	午前　8:45～11:00 午後　1:30～ 3:00	尚、午前8:00及び午後1:00より1番窓口にて受付整理券をお渡し致します。	休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始・創立記念日(10月15日)

※診療科によって、午前のみ・午後のみ診療を行っている場合や終日休みの場合があります。詳細はホームページから「外来診療体制一覧」をご覧ください。

紹介状をお持ちください

当院の診察を希望される方はかかりつけ医からの紹介状をご持参ください。

紹介状をお持ちいただくことで診療費や待ち時間の軽減につながり、スムーズな診療が可能となります。また、医療機関を通して診療予約を取る事ができますので、まずはかかりつけ医にご相談ください。

当院では、他の医療機関からの紹介状を持たず、直接来院された患者さんにおかれましては初診に関わる(初診時特別料金)7,000円(税込)を頂戴しております。

お薬手帳をご活用ください

患者さんが「どんなお薬をどこの医療機関から処方されているか」は、診察する上でとても大切なことです。

他の医療機関に通院されている方は、診察の際にお薬手帳やお薬の説明書をご準備ください。

JIN

山形済生病院院外広報誌「じん」号外(2022.12月発行)
発行責任者:院長　石井 政次
編集制作:広報委員会(広報誌編集部会)

山形済生病院
ホームページはこちらから

イメージキャラクター
「なでりん」

Message

院長メッセージ
人工関節センター・周産期センターのご案内

院長
石井 政次

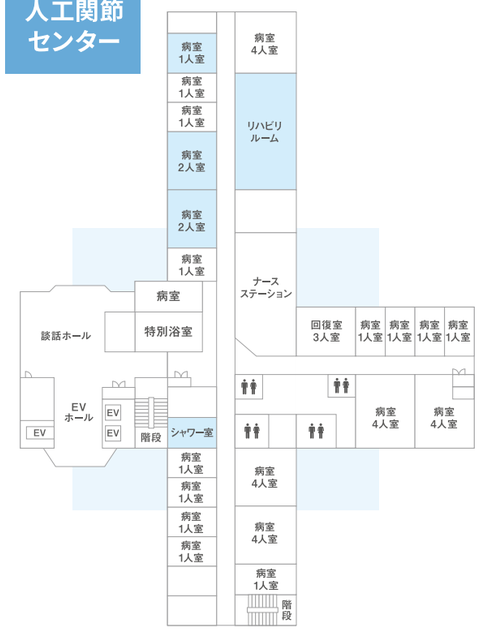
当院は開設時より整形外科・産婦人科を柱としてきました。私が院長となった時から、人工関節センター・周産期センターは特色ある病院づくりのための課題であり、ようやくこの度実現することができました。環境新たにさらに質の向上を目指し、今まで以上に地域の医療機関や患者さんに選ばれる病院を目指します。

人工関節センターについて、当院は専門医の体制が充実しており、人工関節手術は全国でも上位の件数を誇っています。総合病院としては珍しい専用病棟を確保し、術後の車椅子移動に適した専用トイレの増設やシャワー室の設置を行い、アメニティの充実を図りました。人工関節の患者さんがより快適に過ごせるよう、手すりなど細かい部分まで改善しています。さらに病棟内でのリハビリテーションを行い、専門スタッフによる医療・看護・リハビリの集約的医療を提供します。今後も手術実績を伸ばしながら、高いレベルの治療を提供していきたいと思います。

周産期センターについては、小児科と連携しながら更なる高度な医療を目指し、安心、安全な出産まで一貫した医療を提供します。アメニティや食事の充実も図っております。母親学級等に使用できる多目的室、スタッフや患者さん同士の交流の場としてサロンを配置するほか、おっぱい外来や助産師外来などの機能を集約しました。

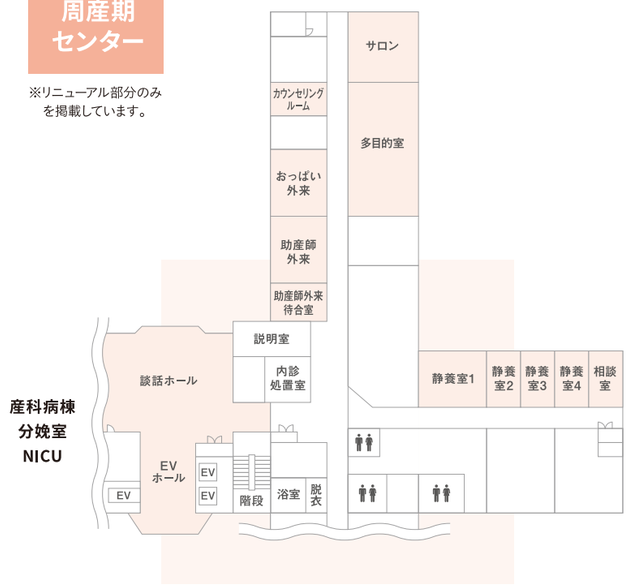
さらには保険適応となった不妊治療は今まで以上に希望が増加すると思われます。不妊治療の患者さん専用のベッドを配置し、胚移植後の休憩等に使用します。安心して妊娠・出産できるより快適な環境を整えることで、少子高齢化に歯止めをかける一助になれればと思います。

4F 人工関節センター



3F 周産期センター

※リニューアル部分のみを掲載しています。



人工関節センター

バリアフリー対応トイレ

術後動きづらい患者さんも使用しやすいバリアフリー対応トイレを増設し、より多くの患者さんにご利用頂けます。

特別室

段差をなくし、車イスの方も利用しやすいバリアフリーのお部屋となっております。

リハビリルーム

病棟内でリハビリテーションを行うことができます。人工関節の専門的な知識を持ったスタッフが、安心した自宅生活に復帰していただくためにサポートします。

シャワー室

人工関節の患者さんにとって使いやすいシャワー室を完備しています。

病室（2床室）

空間のゆとりに配慮して4床部屋の一部を2床部屋に変更しました。

周産期センター

サロン

患者さんと看護者の交流の場として使用できるスペースです。フォトスペースとしても使用でき、スタッフがカメラマンとなり、生まれた喜びを素敵な思い出に残します。

多目的室

母親学級などに活用できるスペースです。自分らしいお産になるように心と身体の準備をサポートします。

助産師外来

妊婦さんが安心して分娩に臨めるように、助産師が保健指導を行っています。

おっぱい外来

母乳育児・育児不安をサポートするために、助産師による「おっぱい外来」を行っています。

談話室

ご家族の方や患者さんが自由に使用できるスペースです。森林をイメージした憩いの空間でほっと一息してみませんか？

祝い膳

当院で出産された方に提供している「祝い膳」は、Bistro marcy（ビストロマーシー）に依頼しています。
美味しさはもちろんのこと、お母さんと赤ちゃんの健康を祈願して考えられたお膳となっております。
※季節によりメニューが変更となる場合があります。

人工関節センター

人工関節センター長 福島副院長へインタビュー

人工関節治療の拠点として、さらに質の高い医療を！

interview by sato masako | text by sato masako | photograph by ito mikako
佐藤 昌子 ＝ インタビュー　佐藤 昌子 ＝ 文　伊藤美香子 ＝ 写真

これまで以上に患者さんにとっての付加価値を見出す

Q人工関節センターを開設した理由を教えてください。

福島　当院では整形外科の人工関節治療を一つの柱として長年取り組んできました。今後はさらに医療体制を充実させ、これまで以上に患者さんにとっての付加価値を見い出しつつ、安全で質の高い医療を提供していかなければならないと考えています。そこで、術前から術後、退院までを専門のスタッフが関わりながら治療を行う、総合病院としては珍しい人工関節に対応する専用病棟を設置することにしました。

Qこれまで課題もあったのでしょうか。

整形外科では、人工関節置換術が可能な股関節や膝関節の疾患だけでなく、肩関節、リウマチ、スポーツによるけがなど、多岐に渡って運動器疾患を診療しています。これまでは症状問わず同じ病棟に入院していただいていましたが、人工関節については入院から退院、リハビリまでトータルにケアを行う環境の必要性を感じていました。センター化することで、患者さんもスタッフも集中して治療にあたることが可能になります。

Q施設面で今回変わった点を教えてください。

計画するうえで重要視したのは、患者さんがどうすれば居心地良く、入院生活が送れるかということです。そこで、従来の4A病棟の全面改修を行いました。具体的には病棟内にリハビリルームを設置し、移動せずにリハビリができるようにしました。また、車いす対応トイレの増設とシャワー室の設置を行い、2人部屋を増やし、アメニティの向上に努めています。

Q人工関節治療において、当院の強みを教えてください。

当院は常勤医（股関節専門3人、膝関節専門3人）を含め、高いスキルを持つスタッフが多く、すべての年代の患者さんに適した治療を提供できる体制が整っています。人工関節置換術については膝関節が年間およそ450件、股関節は400件と、日本でも上位の手術件数を誇っています。変形性膝関節症の場合、状況に応じては両側同時手術も行えるのも当科の大きな特徴です。同時に手術することで1回の入院で済むというメリットがあることから年間70～80件の両側同時手術を行っています。山形県における人工膝関節置換術数は10万人あたり全国1。これは県内の医師たちが切磋琢磨しながら、技術を磨いてきた背景があればこそ。人工関節治療の教育病院としての役割も担っているため、当院には技術習得のために全国から医師が見学に来られます。センターが完成し、これまで以上に人工関節治療の拠点として質の高い医療を提供していきます。

人工関節の患者さんをトータルにケアできるより快適な環境へ。

Q手術を選択される患者さんの年代は変化していますか？

当院で、膝・股疾患により人工関節置換術を選択する患者さんの平均年齢は膝関節で76歳、股関節は68歳です。超高齢化が進み、膝関節では80歳以上の方が10年前は10％強だったのに対し、現在は40％弱と大幅に増えました。両側同時手術を受けられた最高年齢は92歳です。同様の病院における膝関節の術後の平均在院数は約3週間ですが、当院では2週間ほど。両膝の場合は3週間が目安です。ただし、外科治療を決断する前に、患者さんの状態を見ながら最適と思われる治療法を提示しています。さらに高血圧、高脂血症、糖尿病などの合併症を抱えた患者さんのリスク把握のため、かかりつけの先生から情報をいただいたり、術前検査を行います。超高齢化による認知症の患者さんに対する術後のリハビリなどのケアが今後の課題の一つです。

副院長 福島重宣先生

青森県生まれ北海道育ち。
好きなこと♥テニス

Q手術前後の流れを簡単に教えてください。

人工関節置換術を選択される場合は前日に入院していただき、股関節の場合は全身麻酔および腰椎麻酔で、膝関節の場合は腰椎麻酔で行います。いずれも手術時間は1時間半～2時間程度。午前中に手術を行った場合、夕方からリハビリを開始して膝の曲げ伸ばしや床から立ち上がれるように練習しています。早期に始めることで血栓症（DVT）の予防ができ、患者さんのモチベーションアップにもつながります。

Q今後について考えていらっしゃることがありましたら。

患者さんの中には医師に何を聞いたらいいのかわからず、また聞けない人もいるかもしれません。人工関節について理解を得ていくためにもホームページ等で情報を発信したり、患者さんに向けたセミナーを開くなどしていくことが必要になってくると思います。

Q患者さんにお伝えしたいことを最後に。

膝・股関節の症状でお困りの方は、まずはかかりつけのお医者さんにご相談ください。そのうえで当院にお越しいただければスムーズな診察と治療が可能になります。

私たち専門医は、常に高度な治療を目指して研鑽を続けています。人工関節センターを開設したことで、これからさらに人に地域に貢献していけるようがんばっていきます。

周産期センター

地域周産期母子医療センター長 阪西特任副院長・岸看護師長へインタビュー

安心感に包まれて心地良く。ハード面とソフト面から患者さんをフォローアップ！

整形外科による人工関節治療のための「人工関節センター」の開設、産婦人科における「周産期」対応の充実を図るための取り組み。これまで以上に質の高い医療の提供を基本として、安心・安全な病院を目指し、ハード、ソフトの両面から患者さんをサポートしていきます。

interview by sato masako | text by sato masako | photograph by ito mikako
佐藤 昌子 ＝ インタビュー　佐藤 昌子 ＝ 文　伊藤美香子 ＝ 写真

Q「周産期」について、また当院が担う医療体制について教えてください。

阪西　妊娠22週から出生後7日未満までの期間を「周産期」と言い、この時期は妊婦さんや赤ちゃんにとって思いもよらないできごとが発生しやすくなります。こうした事態に備えて産科・小児科双方からの総合的な医療体制を整えていくことが必要です。

当院は「地域周産期母子医療センター」として24時間体制で産科と小児科が連携・協力のもとに高度な医療を提供しています。

Q済生病院における、産婦人科としての強みを教えてください。

阪西　強みは「周産期センターとして、切迫早産、多胎妊娠、前置胎盤、妊娠高血圧症候群などのハイリスク合併妊娠の管理出産ができる」こと。また、助産師が主導でお産に関わっている点も大きな特徴です。当院は県内でも助産師数が多く、「院内助産ガイドライン」に沿って妊娠27週、31週、37週の妊婦健診は助産師外来で対応しています。院内助産担当の助産師はＮＣＰＲコース（子どもの蘇生）、ＡＬＳＯプロバイダーコース（産科救急）を受講し、「アドバンス助産師」の認証を受けた者だけで構成されています。

岸　言うまでもなく分娩時は先生が必ず立ち会いますので、安全と質が担保された環境の中でお産ができます。医師と助産師の信頼関係が構築されていることが強みであり、妊婦さんの安心につながっていると思います。

Q今回改善した、具体的なところを教えてください。

阪西　今まで外来棟にあった助産師外来、おっぱい外来、ＩＶＦ処置室、臨床心理士のカウンセリングルームを同じフロアに集約し、患者さんにとって利便性が高く、心地良い環境の中で安心してお産に臨んでいただけるように改善しました。

岸　患者さんと看護者の交流の場として畳敷きのサロンを設置。壁にはハチドリの絵柄の壁紙を貼りました。ハチドリは「幸せのシンボル」と言われています。心を癒す空間であってほしいという願いを込めました。

妊婦さんがほっと安らげる空間に。

人気のマタニティフォトやニューボーンフォト。フロア内に撮影スペースを確保し、赤ちゃんとの笑顔あふれる1枚をスタッフがお撮りします。

病棟の助産師にはアロマセラピスト、ベビーケアセラピストなど様々な資格を持つ人たちがいます。こうした学びを生かせる場として多目的ホールを活用していきます。「幸せを招く」「仁の心を持つ」と言われるキリンの壁紙のホールで、愛と思いやりにあふれ、わくわくする企画を考えていきます。

入院期間が長くなると、病院のベッドで季節をまたいでしまうこともあります。そこで、ラウンジを青空、木々の緑、草花をイメージした雰囲気にリノベーションし、院内にいながら季節の移り変わりや息吹を感じられるようにしました。

阪西　リスクを伴って入院されている妊婦さんは制限されることも多いですし、私たちも母児ともに安全な分娩をするために厳しいことを言わざるを得ない場合もあります。そうした中で、少しでもほっとしていただける場所と時間を提供したいと考え、ソフト面を充実させました。

Q今後について考えていらっしゃることがありましたら。

阪西　出産までいかに食事をコントロールしていくかは、妊婦さんにとって大切なことです。便秘、貧血、体重コントロールの改善は、良好なお産につながります。そうした視点を踏まえ、もっと食育について指導していかなければならないと考えています。体重制限や糖質制限があってもお腹いっぱい食べることができ、赤ちゃんには栄養がいくけれど自分は太らないという食事の管理が理想ではありますが。また、最近の研究から腸内フローラの改善が、膣内の乳酸菌の割合を高くし、膣内細菌叢を改善することで切迫流早産の防止につながることが明らかになっています。規則正しい食生活を心がけ、ヨーグルトや発酵食品を食べて腸内フローラを良好にすることで順調な妊娠経過が期待できるものと考えます。より良いお産のために、今後は食育も含めてトータルにケアをしていければと思っています。

Q患者さんにお伝えしたいことを最後に。

阪西　今回の改修にあたってはスタッフたちが、患者さんたちがくつろぐことができ、元気になってもらえる仕掛けをいろいろ考えてくれました。コロナ禍により一人で出産しなければならない状況の中で、医師と助産師だけでなく、多くのスタッフが妊婦さんを支えますのでご安心ください。

岸　これから先、育児で大変なことがあっても、赤ちゃんと出会えた感動や当院で過ごした時間を思い出してもらえたら嬉しいです。退院後も困った時には相談に来られるような、そんな場所でありたいと願っています。

特任副院長
地域周産期母子
医療センター長
阪西通夫先生
新潟県出身。
好きなこと♥空を眺めること。
憧れていた職業はパイロット。

3B病棟
看護師長
岸あき子さん
山形出身。
好きなこと♥家庭菜園、さくらんぼ。